わが青春のマリアンヌ（1955）

MARIANNE DE MA JEUNESSE
MARIANNE OF MY YOUTH［米］
MARIANNE

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 フランス／ドイツ
色彩 B&W
時間 106分
初公開日 1956/04/01
公開情報 東和

【解説】

戦後のデュヴィヴィエ作品としては高く評価されていい一編だろう。多分に文学的傾向が強いが、鬱蒼とした森の神秘性などセットとロケ取り混ぜてうまく出し、主人公の少年二人の美丈夫ぶりも手伝って、寄宿舎ものなど愛好する耽美派の向きにもご納得の作品ではないか。美しい湖を望むインゲリシュタット館で寄宿生活をする身よりのない少年たちの仲間に、南米アルゼンチンから来たヴァンサン（ヴァネック）が加わった。ギターをつま弾き優しい歌を唄い、動物たちにも好かれる彼に作品の語り手であるマンフレートは魅了される。仲間の一部、“強盗団”を名乗る連中は、新入りの試練を与えようと向かいの“幽霊城”と呼ばれる古城へ彼を連れていくが、番人に犬をけしかけられて彼一人おいて逃げ帰ってしまう。が、そこで彼は、自らを囚われの身だという美少女マリアンヌに出会い、心奪われる。そして、その夜は嵐となった。館長の姪のリーズはヴァンサンに焦がれていたので嫉妬し、彼の寵愛する鹿を殺した。やがて、ヴァンサンはただ“助けて”とだけ記されたマリアンヌの手紙を受け取ると、一目散に湖を泳いで渡った。彼女は既に、もうすぐ城主の男爵と結婚せねばならない――と訴える。が、彼女と逃げ出そうにも、巨漢の番人と猛犬に阻まれて果たせず、ボロボロになってヴァンサンは館に舞い戻る。そして、再び、マンフレートと共に城へ向かうが、そこはもぬけの殻で、ただマリアンヌの肖像画が残されるのみだった。仏語版と独語版が、主役以外はキャストを変えて、並行して撮られたという、オーストリアのフィッシェル湖畔を舞台にした、青春のロマン溢れる佳作だが、惜しむらくは、マリアンヌを演じるホルトがただ整った美人という印象で、サムシング・エルスに欠けること。ヒロイン次第で叙情の深みは違ったはずだ。

【クレジット】

監督	ジュリアン・デュヴィヴィエ	Julien Duvivier	
製作	ラルフ・ボーム	Ralph Baum	
原作	ペーター・フォン・メンデルスゾーン	Peter von Mendelssohn	
脚本	ジュリアン・デュヴィヴィエ	Julien Duvivier	
撮影	レオンス＝アンリ・ビュレル	Leonce-Henri Burel	
音楽	ジャック・イベール	Jacques Ibert	
出演	マリアンヌ・ホルト	Marianne Hold	マリアンヌ
	イザベル・ピア	Isabelle Pia	リーズ
	ピエール・ヴァネック	Pierre Vaneck	ヴァンサン・ロランジェ
	ジル・ヴィダル	Gil Vidal	マンフレッド
	ジャン・ガラン	Jean Galland	
	ミヒャエル・アンデ	Michael Ande	

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.